

町と連携した密着支援で スムーズな創業・移住を実現

課題

首都圏からの受注以外に 地元での取引先を増やしたい

能登デジタルネットワークは、2016年、神奈川県横浜市で歯科技工士として勤務していた経営者が、理想的な子育ての場を求めて1ターン移住し独立開業した。中能登町の行政が情報提供する「空き家バンク制度」を活用して住まいを確保し、その一画を作業所として事業を行っている。

経営者には、以前の勤務先である横浜の会社から定期的な受注があったので仕事の不安はなかった。しかし、1社集中の受注では経営リスクが大きいうえ、地元とのつながりも生まれにくい。地元でのつながりをつくるためには、居住する能登地方の複数の歯科医院からの受注を確保することが必要不可欠だったが、経営者は中能登町に頼れる人や知り合いが一人もいない状況で、地元での営業をどう広げていったらよいかわからなかった。

さらに、経営者1人では製造可能量に限界が近づいており、事業拡大を目指すには、人材確保も課題だった。それに加え、より精度の高い商品を効率よく製造していくためにはさまざまな設備投資も必要で、そのための資金調達もしなくてはならなかった。

支援

地域密着支援と補助金活用で 生活面から仕事までをサポート

創業を考えている段階で相談を受けた中能登町商工会は、「公私ともに充実した生活を送りたい」という希望を実現支援するべく、商工会が実施する創業セミナーの受講を提案。事業者となるための心構えを伝えるとともに、指標とする数値や目標を明確にするための事業計画書（3年分）の作成をともに行った。さらに、作成した計画書をもとに「中能登町創業支援補助金」と、日本政策金融公庫の新創業融資制度への申請をサポート。これらの円滑な資金調達により、創業することができた。

創業後は「受注先を複数に増やし、地元での関係性も広げることが重要」と、地元での営業に力を入れることを提案。知人がいない地域に溶け込むために、商工会青年部への入部もすすめた。また、小規模事業者持続化補助金の申請も支援。射出成形機や自動研磨機などの設備を導入し、高精度かつ迅速な歯科補綴物が製造できる環境を整えていった。



持続化補助金で導入した自動研磨機

さらに商工会の支援が功を奏し、能登地区の歯科医院との取引開始が実現。取引先数が増加することにより、経営の安定化につながった。

現在は1人ですべてをこなしているため、今後は従業員の雇用も考えたい、という経営者。当事業所で製作した歯科補綴物を日常生活で違和感なく装着してもらうために、より精度の高い歯科補綴物の製造を可能にする3Dプリンターの導入なども検討していく方針だ。

支援の経過

期間	支援内容
2016年10月～ 2017年6月	創業支援 (創業補助金、日本公庫新創業融資)
2017年6月～11月	営業活動支援 (SHIFT、販売促進、 中部経済産業局の創業支援事例取り上げ)
2018年4月～12月	持続化補助金の申請・実行支援

会社概要

会社名：能登デジタルネットワーク
住所：石川県鹿島郡中能登町能登部上甲82-9
電話番号：090-2464-9507
代表者名：大島圭輔
創業年：2017年
従業員数：0名
商工会名・担当者名：中能登町商工会・高田圭一郎